

下水道の本当の姿を知ってもらうために

◇ 目 次 ◇

第1章 下水道について興味をもってもらうには？

提案 1	魅せる下水道.....	1
提案 2	下水道の存在意義.....	5
提案 3	下水道ががんばっていること.....	17
提案 4	下水道から広がる環境学習.....	21
提案 5	家庭でできること.....	25
提案 6	住民と一緒に支える下水道.....	37

第2章 下水道の政策をわかりやすく伝えるには？

提案 7	浸水対策と地震対策.....	43
提案 8	良好な水環境の創造.....	53
提案 9	下水道経営入門.....	57
提案 10	改築更新の重要性.....	63

第3章 提案から実践へ！

実践 1	終末処理場の名称変更.....	71
------	-----------------	----

下水道未来計画研究会報告書のとりまとめにあたって

国土交通省都市・地域整備局

下水道部長 谷戸 善彦

下水道未来計画研究会は、21世紀における社会情勢の大きな変化を的確に捉え、100年後の下水道のあり方はどうあるべきかを議論するために、今後の下水道を担う若手職員から構成される研究会として平成15年11月に発足いたしました。

研究会における議論の成果は「次世代へつなげるために下水道からの提案 ～未来社会で下水道ができること～」と題する報告書として平成16年3月にとりまとめられ、下水道政策研究委員会の場合においても紹介されるなど、広く活用されているところです。

その後、研究会の活動は一旦休止していましたが、折しも国土交通省では平成17年を「情報発信元年」として位置付け、下水道関係者が一丸となって情報発信に徹底的に取り組むこととしたことから、若手職員の斬新かつ柔軟な発想により新たな情報発信のアイデアをとりまとめ、これを広く内外に示していくことが重要であるとの判断のもと、「情報発信」を新たなテーマとして本研究会の活動が再開されることとなりました。

そもそも、情報発信を徹底的に行う背景には、下水道の多様な役割・機能が国民に対し十分伝わっていないという危機感があります。これは、下水道がこれまで情報発信に精力的に取り組んでこなかったというよりも、むしろ情報発信のやり方自体に問題があったと解するべきではないでしょうか。すなわち、下水道についてまだ興味をもっていない国民に対しては、事業の必要性、重要性を頭ごなしに説くよりも、まず興味をもって話を聞いてもらうためにはどうすべきかを考えるべきだったのではないかと、ということです。

このような問題意識をもちつつ、メンバーを一新した第2期下水道未来計画研究会において、平成17年2月より合計5回にわたって議論を重ね、その成果として本報告書がとりまとめられました。その内容は、若手職員の研究会にふさわしい斬新かつ柔軟な発想に満ちており、今後の下水道の情報発信のあり方を考える一助となるものと考えております。

今回の報告書が、各都市が情報発信を実践する際のヒントとなり、またその実践により下水道に対する国民理解が深まっていくことを祈念しております。

最後に、今回研究会に参加された若手職員の皆様におかれましては、今回の経験を今後の業務にいかしていただくとともに、各都市の先頭に立って情報発信の実践に努められることを期待しています。

下水道未来計画研究会

(平成17年7月現在)

- リーダー 松原 誠 (国土交通省下水道部下水道企画課下水道技術開発官)
- メンバー 江澤 幸介 (札幌市建設局下水道建設部計画課)
仲道 雅大 (仙台市建設局下水道建設部下水道計画課)
高山 卓士 (さいたま市建設局下水道部下水道計画課)
米田 佳加 (さいたま市建設局下水道部下水道計画課)
松田 和之 (千葉市下水道局建設部下水道計画課雨水企画室)
葛西 孝周 (東京都下水道局計画調整部計画課)
是安 秀樹 (東京都下水道局計画調整部計画課)
丸山 浩史 (川崎市建設局下水道建設部計画課)
高野 政和 (横浜市環境創造局環境政策課)
田中 孝英 (静岡市企業局下水道部下水道計画課)
福井 千晴 (名古屋市上下水道局技術本部計画部下水道計画課)
梶井 善徳 (京都市上下水道局下水道部計画課)
安井 幹人 (大阪市都市環境局下水道部工務課)
平田 卓也 (神戸市建設局下水道河川部計画課)
小川 健一 (広島市下水道局計画調整課)
大川 桂吉 (北九州市建設局下水道河川部下水道河川計画課)
壺岐 和久 (福岡市下水道局建設部事業調整課)
丸山 徳義 (日本下水道事業団事業総括部東日本設計センター計画設計課)
岡本 直久 (日本下水道協会技術部業務課)
榊井 正将 (国土交通省下水道部下水道企画課)
池之上 貞治 (国土交通省下水道部下水道企画課)

以下 旧メンバー (所属は平成17年3月時点のもの)

- 桑山 則之 (静岡市企業局下水道部下水道計画課)
高井 洋澄 (日本下水道協会技術部技術第二課)
堂園 洋昭 (国土交通省下水道部下水道企画課)
粉川 大樹 (国土交通省下水道部下水道企画課)